総合医学会報告

シンポジウム

多職種からみた高齢者医療

座長　鄭　東孝[†]　三浦久幸[*]

第67回国立病院総合医学会
（平成25年11月８日　於金沢）

IRYO　Vol. 68　No. 12（606－608）2014

要旨　高齢者医療は生物医学的な問題に対するアプローチだけでは成り立たず，生活者として支援していくことが必須である．支援の種類は生活全般にわたる多彩なものであり，それぞれ専門的な能力が必要である．ゆえに，高齢者医療の現場では，多くの専門職の有機的な協働のもと，日々の医療が提供されなければならない．多職種の有機的な協働には，自らの専門とは異なる，「他」の職種・現場への理解が成否を左右するため，相互の現場訪問，合同カンファレンスなどを通じ，異なる専門職との円滑なコミュニケーションを図ることが求められている．高齢者医療における多職種連携は，多彩な職能の部分的な関与がモザイク状に集合したものではない．「他」の職種・現場への理解のもと，それぞれの職能の有機的な協働で相乗効果を発揮するような「他職種」との連携が重要なのである．

キーワード　高齢者医療，地域医療連携，多職種連携

はじめに

日本はすでに高齢社会にあるが，今後は認知症等の複数の慢性疾患を併せもつ高齢者がさらに増えていくと予想され，国立病院は地域医療を支える拠点としてこれまで以上に重要な役割を担うことになる．高齢者の地域医療においては，高齢者本人の意向やQOLを最も尊重した医療実践が必要とされているが，一方で，急性期対応に追われている病院が多く，また，地域の医療・介護・福祉との連携がなく，「とりあえず退院優先」の医療がいまだに継続されているのが現状である．この状況の打開のためには，病院医療スタッフと地域の在宅や施設の医療・介護・福祉スタッフとの「対等な」連携構築が必要と考えられている．多職種連携を実践している国立病院の，看護師・保健師，栄養士，ソーシャルワーカー，そして，在宅医療・介護連携を主眼とした在宅医療連携拠点事業の事務局スタッフから，高齢者医療における多職種連携での課題と，問題解決のための様々な提案が報告された．

国立病院機構東京医療センター　総合内科・在宅医療支援室，＊国立長寿医療研究センター　在宅連携医療部　†医師
別刷請求先：鄭　東孝　国立病院機構東京医療センター　総合内科　〒152-8902　東京都目黒区東が丘２－５－１
e-mail : tchong@ntmc.hosp.go.jp
（平成26年９月５日受付，平成10月10日受理）
Geriatric Health Care as Seen by Various Specialists
Tonghyo Chong and Hisayuki Miura, Department of General Internal Medicine/Home Care Coordination Team, NHO Tokyo Medical Center, ＊Department of Home Care Coordinators, National Center for Geriatrics and Gerontology
（Received Sep. 5, 2014, Accepted Oct. 10, 2014）
Key Words : geriatric health care, community health care coordination, multidisciplinary teamwork

地域医療連携室看護師の視点

NHO 米子医療センターでは，地域の訪問看護師や介護職員との連携を強化する取り組みとして，地域のケアマネジャーを対象にアンケート調査および，その結果に基づく地域包括支援センターとの情報交換会を行っている．この調査と情報交換を通じ，在宅医療における介護スタッフの重要性について病院スタッフの理解が不足していたことが課題として抽出された．また，地域のケアマネジャー・介護職員・訪問看護師を対象に，在宅看護・介護の知識・技術のスキルアップに役立つ研修会を計画し，現在も継続しているなど高齢者を支えるための病院，地域との連携の実例について解説された．

栄養士の視点

NHO 東埼玉病院では，平成18年より在宅患者への在宅訪問栄養指導が実践されている．居宅訪問を通じての食生活や栄養に関する様々な相談活動が報告され，高齢者がどのような環境で食事をしているのか，どのような食べ方をしているか実際に確認することの重要性，病院での栄養指導では気づかれない問題点についての指摘があった．在宅訪問栄養指導がこれらの課題の解決に有効であることも示された．また，介護施設との連携では，栄養サマリーの活用が有効であり，病院での食事の内容，食べさせ方，姿勢など食にかかわる情報を介護施設と病院と共有することの効果を示された．課題は，形態調整食が施設により違うことであり，これらを解決するために栄養サマリーには自院の食事の写真やレシピを載せるなどの具体的な工夫や，施設との食事の違いを一覧表にして退院後の食事が継続できるよう施設と効果的な連携を図っていることが紹介された．食事は高齢者の生活の質に重要ウェイトを占めており，食生活に注目した在宅医療の推進が重要である．

ソーシャルワーカーの視点

NHO 東京医療センター相談支援センター・医療福祉相談室からの報告では，日々の相談業務の経験から急性期病院で行われている医療と，高齢者の平穏な生活の維持には，大きなギャップがあることを指摘した上で，同院在宅医療支援室が開催している「介護教室」の取り組みが紹介された．高齢者医療では，医療機関の機能分化，医療と介護の現場の違いを踏まえた上での連携や，患者・家族も高齢者医療の当事者として，早期から病気や医療・介護について知識を身につけ，理解を深めるような働きかけも必要であり，患者の人間性を尊重し，患者・家族を含めたチームで話し合い，患者ごとに独自の答えを見出していくのが理想的である．

在宅医療連携拠点事業事務局の視点

高齢者医療においては，日常生活支援と連動した治療提供が必要であり，福祉制度などの地域との協働や，生活を支える介護職者等との連携が重要である．拠点事業所からなされる各地域の実情報告では，全国的に共通する連携の阻害要因は相互理解への連携教育や連携体験の少なさから派生していることが一因と推測され，連携のコーディネーターとして介護に精通する看護師の活動は多職種連携に有益と考えられる．単独や少人数で業務を行う医師や介護職と，チーム業務を日常とする看護師・保健師らが精緻に組み合わさった機能連携が重要である．

ま　と　め

日常生活に介助を要する虚弱高齢者の診療機会は激増している．個々の現場で医療を完結させることは困難となり，病院，家庭，診療所・地域，施設との連携は必須となった．高齢者医療にかかわるすべてのメンバーは，医師，看護師，栄養士，ソーシャルワーカー，患者，家族，専門医，福祉担当者など関係者間のコミュニケーションを重視し，協働する多職種連携を実践しなければならない．

〈本論文は第67回国立病院総合医学会シンポジウム「多職種からみた高齢者医療」として発表した内容を座長としてまとめたものである．〉

著者の利益相反：本論文発表内容に関連して申告なし．

Geriatric Health Care as Seen by Various Specialists

Tonghyo Chong and Hisayuki Miura

Geriatric health care is not complete by approaching only biomedical problems ; it is essential to give support as a living person, too. The kinds of support are varied, covering all aspects of life, and each kind requires specialized ability. Thus, in the actual practice of geriatric health care, organic cooperation of the various specialists is needed in providing health care from day to day. Since the other specialties are different from one's own and understanding others' specialties and places of practice determines the success of this, cooperation calls for effort to communicate smoothly with specialists of other fields through mutual visits, team conferences, and other such activities. Teamwork among various specialists in geriatric health care is not a mosaic assemblage of partial involvements by a colorful array of disciplines. Based on understanding others' specialties and places of practice,it is important to work together with other specialists in a way in which organic cooperation among the various disciplines achieves a multiplier effect.